

地域おこし協力隊 活動報告会

2025年3月18日（火）

発表者：阪井元子

2023年5月1日（月）地域おこし協力隊になりました



1967年大阪府豊中市に生まれ、兵庫県西宮市で育ち、結婚してからは神戸市で過ごす。

経歴はアパレル商品開発、編集プロダクション制作勤務、広告営業、接客業等。直近の仕事はパーソナルカラーアナリスト。

コロナ禍をきっかけに人生の最終盤の生き方を考え、地方移住の可能性を探り、タイミングよく募集されていた姫路市の地域おこし協力隊に応募。現在は、平日は地域おこし協力隊として坊勢島で勤務、週末は夫のいる神戸市で過ごす二拠点生活を実施。

初年度は、スケジュールの許す限り「なんでもやります！」
無我夢中で活動する1年でした。



姫路市の地域おこし協力隊はフリーミッション

2年目「島での活動の種をまく」

- 1年目の経験や知り合った方々の協力を元に、さまざまなアイデアを練り上げ、観光プログラム・イベントの実施や家島の産品の販路拡大など、自身の興味や能力に応じた取り組みを実施していきます。

地域の方と協力して取り組むイベント

- ・ 5月 【なかはりまオープンガーデン】 坊勢島案内 **BOZEみなとガーデン**
- ・ 8月～2025年3月 【家島フォトクエスト】
家島百景フォトコンテスト2024
家島フォトクエスト実行委員会
- ・ 8月 【ペーロンフェスタ2024】
ペーロンフェスタ実行委員会・坊勢区会
- ・ 11月 【アイランダー】 オンラインステージ **坊勢漁業協同組合**
- ・ 11月 【秋季祭礼】 【学習みかん園収穫】 **坊勢区会**



地域の方と協力して取り組むイベント

・5月【華姫さわら祭り】7月【白鷺鯉祭り】
11月【ぼうぜ鯖祭り】1月【かきフェア】 漁業
見学船の坊勢島案内 **坊勢漁業協同組合**

・6月【家島観光釣り大会】10月【パーソナ
リティと歩く】 **家島観光事業組合**

・7月【家島天神祭り】子どもコーナー手伝い
家島宮区会

・8月【坊勢盆踊り】【秋季祭礼】 **坊勢区会・実行委員会**



【ペーロンフェスタ2024】について 昨年度の報告会資料より

ペーロンフェスタ2024は子供たちや若い世代の経験・交流の場！

キレイな海に囲まれた坊勢島で開催されるペーロンフェスタを坊勢島のファン作りに活かしたい！



地域の方と協力して、みんなですく盛りに上げたい！

新しい取り組み：学生ボランティアの募集

ペーロンフェスタ実行委員会で、慢性的な人員不足を解消する方法として、学生ボランティアを導入したいとの案が酔龍会から出される。



- 高等教育室からの関係各大学への声掛け
- 坊勢島を研究テーマに選んだ学生たちへのアプローチ
- 姫路市ボランティアサポートセンター「ひめじおん」での告知



10名の大学生ボランティアが参加！熱心な働きぶりに地域の方からも大好評！

ペーロンフェスタ2025に向けて

<問題点>

- 年々苛酷になる気象状況下での開催
- 姫路市からの補助金頼りの開催資金
- 開催のルーティーン化によるスタッフの問題意識の欠如、モチベーションの維持



まずは問題意識の共有から！

第31回
ぼうぜペーロンフェスタ2024
令和6年8月3日(土)
開催決定



【場 所】 姫路市家島町坊勢 坊勢スポーツセンター前



イベント内容
兵庫県瀬戸内海に浮かぶ家島諸島・・・
その坊勢島で、毎年8月第1土曜日に開催されるイベントです。
漕ぎ手は1艇20人で、
ペーロン初心者でも大歓迎！
仲間たちとともに、ひと夏の思い出を作りませんか？

競技種目
親子の部・中学生の部
一般男子の部・一般女子の部・オープン(男女混合)の部

お問合せ先
ぼうぜペーロンフェスタ実行委員会(坊勢区内)
TEL 079-326-0858 FAX 050-3505-3313
<http://bozeperon-festa.webnode.jp/>



地域の方と協力して行う課題解決への取り組み

①【地域猫活動】 昨年度の報告会資料より

地域猫活動は環境問題！「キレイで感じのよい坊勢島」を目指して、
地域の方と取り組む地域猫活動



猫を好きな方にはご協力を 猫の嫌いな方にはご理解を

【地域猫活動の実績】

- ・ 4月6月10月 坊勢島野良猫一斉捕獲手術→
地域猫化するTNR活動 **坊勢区会**
- ・ 7月8月10月11月12月1月 地域猫を捕獲し、
里親募集する保護活動 **坊勢区会**
- ・ 2月3月 **坊勢漁業協同組合**より依頼 干し
ガレイの被害に対するトラブル対応 **坊勢区会**

TNR：捕獲し手術したのち、元の場所に戻す

保護：捕獲したのち、飼い主を探す

	TNR	保護
4月22日23日	6匹	
6月4日～7日	44匹	11匹
6月19日		1匹
7月12日	4匹	
8月11日		1匹
8月27日	2匹	2匹
9月10日	3匹	
9月28日	1匹	1匹
10月21日22日	24匹	1匹
11月11日		2匹
12月13日		2匹
12月20日		2匹
1月24日		2匹
合計	84匹	25匹

1) 一斉捕獲手術の実施について

6月：全島全頭一斉捕獲手術をめざし、「スペイククリニック姫路」を招き、坊勢島に臨時の診療所を設置。捕獲は尼崎で活動するボランティアグループ「つかねこ」に協力いただく。

TNR 44匹 保護11匹（うち8匹つかねこ引き取り）

10月：6月に協力いただけなかったエリアを中心に実施。捕獲猫の姫路港への移送は別船で行い、手術は「スペイククリニック姫路」で実施。捕獲は「ねこから目線。」というプロに依頼。

TNR 24匹 保護1匹

WEEKEND PREMIUM

ねこから目線。
の現場から
離島のTNR



ノラ猫・保護猫専門のお手伝い屋さんとして仕事をしていると、猫を通していろんな地域で暮らす方々とのつながっていきます。人が暮らしていればそこには必ず猫がいて、地域それぞれの猫と人の関わりがあります。

今回は、離島でのTNR(ノラ猫さん)に不妊手術をして元の場所に戻す(リ)の様子をお伝えしたいと思います。舞台は兵庫県姫路市にある家島諸島の中の坊勢島。人口2千人弱(令和5年時点)、漁業が盛んで「漁師町」として知られています。

漁師の町には猫がつかいものです。坊勢島にもノラ猫さんが多く、一部の住民や、釣りに訪れる方々にかわいがられていました。一方、じわじわと増えた糞尿被害のほか、猫さんが増えすぎたことで1匹に行きわたるご飯が少なくなったため、状態の悪いノラ猫さんが見受けられるなど、ノラ猫さんが問題視されるようになっていきました。

そこで、坊勢区会はノラ猫問題に取り組むスベイクリニック姫路(不妊手術を専門とする動物病院)の獣医師さんや、姫路市の動物管理センターの職員さんを島へ招き、対策について相談と検討を重ねました。そして、命を守りながらもゆるやかに猫さんの数を減らしていく取り組みとして、島をあげてノラ猫さんの適正管理をめざし、TNRを実施していくことが決まりました。

取り組みは5年12月から始まり、2回の一斉TNRで80匹のTNRが終わった後、6年10月に実施予定の3回目の一斉TNRに、ねこから目線、に打診が

人がいれば猫がいて 関わりがある

そっくりなキジトラさん16匹の中から、ターゲットの4匹を何とか捕獲しました



捕獲に使う道具類は貨物船で先に送りました

ありました。依頼の内容は、警戒心が強く捕獲できないノラ猫さんたちの捕獲と、新たにTNRの理解を得られた地域のノラ猫さんの一斉捕獲、そして、島には動物病院がないため、捕まえたノラ猫さんたちを姫路市内の動物病院まで搬送してほしいというものでした。

事前に地域おこし協力隊の職員さんが調査していただいた「猫マップ」を基に、用意する捕獲器の台数や段取りを決めていきます。当日は、朝に捕獲器などの道具類を貨物船に載せて送り、時間差で捕獲スタッフも島に渡りました。

島には車が通れない細い道や階段が多く、現場まで歩いていかなければなりません。10分ほど捕獲器を持って息を切らしながら階段を上ったところで、目的の「ネコロー」に到着。そっくりなキジトラさんが15匹ほどいる中、この中の4匹が今回のターゲットです。この4匹のときはまいがかけました(無事4匹とも捕獲できました)。

手に持てる範囲の限られた道具、足場



今回、坊勢島では24匹の猫さんを捕獲、姫路の病院に搬送しました



立命館大学大学院応用人間科学研究科対人援助学領域修士、ねこから目線株式会社(大阪)

市)代表、「人もねこも一緒に支援プロジェクト」(NPO法人)代表。

平成16年から猫の保護譲渡やTNR活動をスタート。大学院でノラ猫をテーマに「共生と共存社会のリアリティ」について研究し、29年に猫の多頭飼育崩壊など、ヒトの福祉と猫問題への並行支援が必要ないようケースに対応するため「人もねこも一緒に支援プロジェクト」を立ち上げる。

30年に保護猫・ノラ猫専門のお手伝い屋さん「ねこから目線。」を設立。京都、福岡、沖縄にも拠点を置き、ライスワークもライフワークも猫にまみれている。



漁師の島で、猫さんたちは住民や釣り客と共存しています

たが、区会さんと地域おこし協力隊さんのおかげで、24匹のノラ猫さんを捕獲することができました。翌朝、チャーター便で姫路港まで猫さんを運び、港からは車でクリニックへ搬送します。クリニックではすぐに手術に取り掛かっていただき、夕方に全頭の手術が完了。術後しばらくは病院で安静にした後、先生のOKを頂いてから再び島へと送り届けました。手術を終えたノラ猫さんたちは、区会さんたちが元の場所に戻し、「地域猫」として命を全うしてもらいます。

坊勢島では小さい子猫に関しては外に戻さず、保護をして里親募集も行ってきます。市の助成金が出ない医療費は区会さんがサポートし、これまでに10匹の子猫を譲渡することができました。

今回、コーディネーターの役割を務めていただいた地域おこし協力隊の阪井元子さんは、「またまた全島民の理解が得られたわけはな、少しずつ理解をしてもういながら進めている」といいます。「猫が悪者にならないように」という思いを持って、同じ島に暮らすものとして、猫も人もハッピーに暮らせるようにしたい」と話していたのが印象的でした。

2) 保護猫活動について

去勢不妊手術をするには小さすぎる子猫を捕獲した場合に行う、飼い主を探す活動。島内での協力者5人と「ぼうぜ地域猫活動グループしまねこ」というボランティアグループを立ち上げ、対応にあたる。

(2024年度実績18匹)

トラブル対応についても、坊勢区会とともに協力して実施。

●関係者各位の話を聞き、立場の違いを超えてご協力いただけるよう、調整するコーディネーター的な役割

地域の方と協力して行う課題解決への取り組み

②【空き家対策】 昨年度の報告会資料より

さまざまな可能性のある「空き家」対策！



「空き家」は、若い世代にとって魅力的で、地域の方とも連携でき、
退任後の住居探しや生業作り等にも活かせる対策

「空き家」の利活用事例を幅広く情報収集！

【坊勢島の未来像 - 卒業設計展 -】

建築科で学ぶ大学生が坊勢島をテーマに制作した卒業設計を、作品展としてNPO JLCぼうぜ支部と共同で開催。大学生から見た「坊勢島の未来像」を広く知っていただくための取り組み。

NPO JLCぼうぜ支部は坊勢島の空き家対策で中心的な役割を担っている。常日頃からNPO JLCとは空き家案内や移住者への対応等で協力。

坊勢島の未来像 卒業設計作品展

開催場所：坊勢サービスセンター1階ロビー

開催日時：8月13日（火）～9月20日（金）

平日 8時30分～17時20分

土曜 8時30分～12時 13時～15時

（日曜祝日は除く）

設計を学ぶ大学生が坊勢島をテーマにした卒業設計を制作されました。学生が考える坊勢島の姿を通して、未来像を考えるきっかけにいただければと思います。

遊動するくらしのすゝめ

—ナリワイと分かち合いの自由
が展開するこれからの坊勢島—



テーマ：過疎化が進んでいくと予想される坊勢島の集落空間で発見した路地・庭・隣地関係の境界をまたぐ柔軟な活用方法と、関係人口を巻き込む新たな職業プログラムを掛け合わせることで、住まい方・雇用形態という観点から持続的な島のくらしのありようへと変化させる。

坊勢島と人間の生死

—人生のサイクルの一部となる島計画—



テーマ：みどり文化を大切にしながら、人生の最初と中間地点にも注目し、坊勢島が現代に失われつつある人生の豊かさを感じられるような人生サイクルの一部となる島計画を行った。

柳内あみさんプロフィール

神戸大学 工学部建築学科2024年3月卒業、
現在は大学院在学中

上村日和さんプロフィール

岡山理科大学 工学部建築学科2024年3月卒業、
母親が坊勢島出身

主催：NPO JLC 兵庫 ぼうぜ支部

協力：地域おこし協力隊

坊勢サービスセンター1階ロビーで開催



柳内あみさん展示品



上村日和さん展示品

坊勢島の未来像 -卒業設計展- より 空き家の利活用についての提案資料

(抜粋)

『立ち入りできないほど狭く限られた路地空間を島民たちが利用解釈を豊富にさせ、分ちあひつて利用している様子を観察できた。これは様々なルールで縛られた都市部に住む私たちの暮らしには存在しない、この島ならではの自由さである。この自由さを『分ちあひの自由』と名付ける。

i) 建物の「空き」への提案—ナリワイの核となる場をつく

① 減築し、新しい機能を挿入 ② 室の床材、壁紙・建具の変更 ③ 採光や風の付加
個人が営む小規模のナリワイ

④ 修理 ⑤ 新築 ⑥ ボイドとして

ii) 路地の「空き」への提案
—ナリワイを路地へ波及させ、連関させ
路地に、分ちあひの自由を見込んだ多様なスラブを用意

① 複数寸法のスラブの重なり ② 差し込みスラブ ③ 可動スラブ ④ 開閉スラブ ⑤ 孔スラブ ⑥ 引き

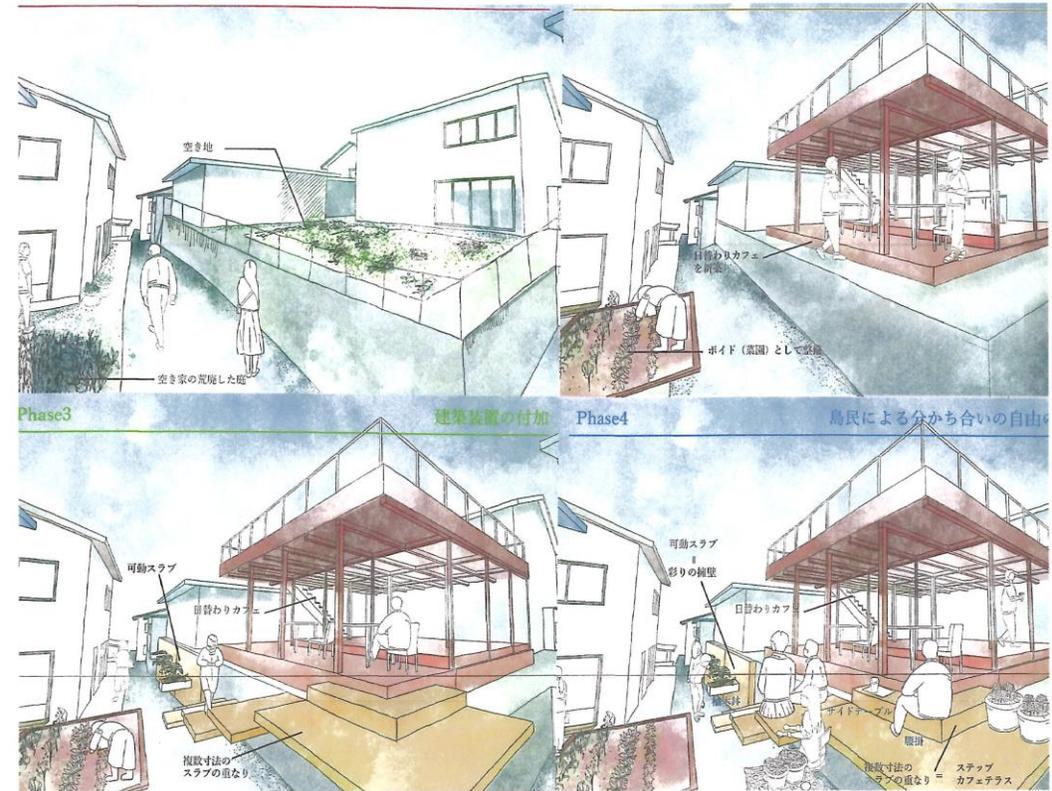
島民による利用解釈

サイドテーブル テラス席 植木鉢 ベンチ

ダイニングテーブル 駐輪場の屋根 袋詰め台 ベランダ 路地を巻き込む 大屋根

ロック扉・アプローチ 這い上がる階段のみと一駐車場 住宅の敷地境界—利用者が決めない仮置き場 テクスチャが変化した場所—利用者の臨時駐輪場

1人の庭—郵便局に行くための近道 公道—密集した住戸の庭の延長 数軒のためのアプローチ—道を隔てた庭の領域 3方向を住戸に囲まれた道—数軒で共有するたまり場



制作者による作品解説。
坊勢中学校2年生が授業の一環
として見に来られる。



坊勢小学校校長先生に解説。
この後、校長先生からの申し出に
より、小学校での常設展示を行う。

地域の方と協力して行う課題解決への取り組み

③【みかん山のお世話】 昨年度の報告会資料より

来年度意識したい活動

- 移住者同士の交流
- 地域の方と移住者で協力できること・方法を探す

完璧を目指すのではなく、できるときにできる範囲でコツコツと！

【みかん山のお世話】について

家島町時代の「観光みかん園」は、姫路市合併後、1本の樹木を1人が世話をするオーナー制を導入。しかし、徐々にお世話する人がいなくなり、昨年までは3人でみかん山全体の管理をしていた。

しかし2024年収穫時期をもって1人が辞められることになり、「誰かみかん山のお世話をする人を探してもらえないか」との相談が寄せられた。



NPO JLCぼうぜ支部とも相談し、移住者のグループに対して協力者を募ったところ、5人の方からお申し出があり、私も含めて6人で「みかんやまおせわのかい」（仮）を結成、2025年3月～活動を開始。

3月9日（日）みかん山の木の剪定と苗木の植樹を行う。



同日、坊勢区会が管理する学習みかん園のレモンの木についても剪定を実施。

今までみかん山のお世話をされてきた方や坊勢区会の学習みかん園担当の方とも連携しながら作業を進めていく方針。

皆で協力し、無理のない範囲で楽しく作業することが目標。

3月	剪定・苗木植樹
4月	下草刈り
5月	下草刈り
6月	下草刈り
7月	摘果
8月	下草刈り
9月	下草刈り
10月	下草刈り
11月	収穫
12月	収穫

地域おこし協力隊退任後を見据えた活動

研修の受講：広報課デザイン研修（7月）・兵庫県地域おこし協力隊研修会（9月）、**佐用町実地視察研修（9月）、シェアカフェ視察とパン教室受講（11月～3月）、**ひょうごスマートサポーター養成講座（12月）、**地域おこし協力隊ステップアップ研修（1月）、**広報課プレミアプロ・フォトショップ・イラストレーター研修（2月3月）、**総務省事業・起業化研修（2月）、上勝町研修（3月）、男木島研修（3月）、和束町研修（3月予定）**

定住のための活動：

空き家のリサーチ、空き家活用研修実施に向けた準備

令和7年度の活動計画：

3年目「島での活動を育てる」

2年目の実績をもとにして、より広く家島の魅力を発信して
いきます。また、協力隊終了後の次のステップに向けた準備
もあわせて進めていきます。

退任後の目標：坊勢島に住み続けること

退任後、坊勢島で何をするか？ 退任後の住居をどうするか？



- ① 「空き家活用研修」の開催！
- ② 「なりわい」を作る
- ③ 「住まい」を探す

空き家の利活用

①「空き家活用研修」の開催！

いえしまコンシェルジュのハレテラスの施工を手掛けた佐工務店より、

「あなたのしたいことをメニューにした研修ができます」という提案を受け、オーダーメイドの研修内容を検討。佐工務店に来島いただいで、実際の空き家に対し、実践的なアドバイスを受けるという内容で実施の予定。

佐工務店 空き家活用研修

工務店があなたの空き家活用を支援します

佐（たすく）工務店は、「自分たちでDIYを企画して空き家活用をしたい」と考える事業者・自治体・個人向けに、伴奏型のDIY研修を実施しています。姫路市内のご指定の地域や物件に工務店スタッフが訪問し、プロの目線で空き家のチェックや改修計画、DIYのコツをアドバイスします。研修内容は、具体的な取り組みをヒアリングし、希望に合わせてカスタマイズするオーダーメイドの支援を提供します。通年を通じた研修も可能です、ぜひご相談ください！

📍 検討中の物件がある方向け*初回研修におすすめ

研修：現地で行う空き家改修のチェックポイント

時間 平日1日（13:00～16:00程度）

場所 姫路市内

内容 ①座学（30分）

- ・改修可能な空き家の目利き
- ・DIYでも改修できる箇所、難しい箇所

②実地（実際の物件見学）

- ・現地による空き家改修のチェックポイント

人数 応相談

費用 33,000円

空き家活用は
物件選びが重要！

物件によっては、
思ったよりも改修費
がかかることも。

物件のチェックポ
イントをお伝えします

【研修項目】取り組みのステージに応じた研修項目、または組み合わせた内容を実施

No	研修項目	内容例
1	空き家改修の チェックポイント	・物件の確認ポイント（屋根、壁、室内、サッシ、 床下、リフォームの形跡など） ・土地の確認ポイント（用途地域・防火地域など） ・活用計画に必要な改修ポイント
2	改修計画	・活用に向けた改修計画（DIYのできる改修、でき ない改修の切り分けなど） ・補助金の情報 ・改修の見積もり、活用後の集客や資金計画など
3	解体	・解体時の気を付けるポイント
4	空き家の改修・ 断熱/耐震対策編	・DIYのできる断熱・気密・耐震のポイント
5	空き家の改修・床編	・DIYのできる床改修のポイント
6	空き家の改修・壁編	・DIYのできる壁改修のポイント
7	空き家の改修・天井編	・DIYのできる天井改修のポイント
8	空き家改修・活用編	・DIYのできる飲食/宿泊/物販などの事業のための 改修ポイント

【お問い合わせ】佐工務店

☎079-227-9579



① 「空き家活用研修」の開催！

研修材料となる空き家物件をNPO JLCと調整、NPO JLCメンバーも参加する形での実施を目指す。第一回を4月7日（月）開催する予定。



② 「なりわい」を作る

神戸大学院生柳内あみさん作成の卒業設計より、坊勢島の問題点として、島内在住の女性が活躍できる場がないことをあげられている。

13. 島民へのインタビュー

登場人物

区長 K.K. さん	前区長 I.K. さん	坊勢漁協組合長 T.T. さん
漁師 K. さん	漁師 U.K. さん	漁師 K.S. さん
主婦 N. さん	地域おこし協力隊 S.M. さん	SJ さん

文化と島民性

キョウライブという文化が今も根強く残っている。今は進学と同時に島をでる若者も多いが、一度キョウライブを達成するとその付き合いは最後の1人が死ぬまで続く。

島内で急病人がでたとき、救急車が入ってはいけないことがよくある。そういう時は島民同士で助け合って運ぶ。他にも困ったことがあればお互い「様、そういう義理と人情で成り立っている島の人たちはシャイな人が多い。ただ、一度打ち解けるととても気にかけてくれる。雨の中歩いていると通りかかった車が拾ってくれる。

島には不動産業がなく、島民同士の賃貸が行われている。そのため所有者と使用者が異なっている物件も多くなる。

坊勢にはあまり文化がある。島民の約4割が自宅を亡くなる。島外に出ている最後のこの島で考える人が多い。

かつて個人農園としてみかん栽培が始まった。運営形態を変えながらなんとかやってきたが、1度はみかん山がほとんど消滅した。その後有志でみかん山の手入れを行い、現在は商売としてはやっていないものの、収穫できたみかんを島民に分け

漁業のこと

船を泊めておく漁港は家の近きで決まる。これといってルールはないが、代々自分の場所というのが暗黙の了解で決まっている。

この島は複数の漁の形態を掛け持ちで行う漁師が多いので、漁師の数より船の数のほうが多い。

船を出せる時間は3:00~19:00と決まっているが、実際に船を出す時間は個人の判断に委ねられる。

漁法ごとに定められた休漁日も、網の修理をする人もいればゴルフに行く人もいる。毎日の生活リズムは一定じゃない。

基本的に漁は1人か2人で行う。漁師のコミュニティは限られているので出合いが少なく集まりが多い。

この島では女性は一切漁業に関わらない。そのため魚を買う場所が少ない。そのかわり大漁の日は近所の人におすそ分けをして食べてもらう。

04. プログラム

島民間のほぐれた人間関係を前提としたあらゆる小さな職業をめられた島づくりをする。そしてその職業は島民1人1人に与えることで誰々にくらしに寄与するだけでなく、空き家の利人口や関係人口とのコミュニティ形成、ライフステージに合わせた形態変化の許容などによって、島全体のくらしを豊かにすることに寄与する。このような職業のことを「ナリワイ」

漁師という職以外の収入源・・・個人に寄与
空き家の利用や坊勢の能力発信の構築・・・島の持続

個人と島全体両方に寄与するような職業及びそれによって生まる生活＝ナリワイ

雇用のない島民
1世帯＝1家族に
関われないくらし
漁業・観光
漁業・観光
島ぐるしに
関係むきつけ

多様なナリワイ

観光・利用
ゲストハウス
島ぐるしに学ぶ
利用
地元学習
シェアキッチン
ゲストハウス
島ぐるしに学ぶ
利用
実践の学び
お手洗い
お風呂
空き室
地域おこし協力隊
島民会社との
コミュニケーション

空き家を利用した「シェアカフェ・シェアキッチン」の提案を受け、

「シェアカフェ・シェアキッチン」＝島内の人も島外の人でもチャレンジできる場所を、坊勢島に作ることを計画！

② 「なりわい」を作る

「シェアカフェ・シェアキッチン」を坊勢島にする

- 姫路商工会議所へ事業再構築助成金の相談
- 観光コンベンションビューローへ観光支援助成金の相談



観光コンベンションビューローから、坊勢島の観光に対して前向きな回答を得る。

坊勢島になぜ観光が必要なのか？

人口減少は日本全国的な問題である。

このまま人口減少が進むと、坊勢島の定期船の利用者が減り、旅客運賃もどんどん値上がりするのではないか？



島民の利用だけでなく、定期船の利用者をもっともっと増やしたい！
坊勢島にも「観光」で訪れてほしい！

観光は「地域資源をいかす」がトレンド！

何か新しいものを取ってつけるのではなく、今ある資源を見つける！
いかす！

坊勢島の「地域資源」は何か？

- ヨソ者には魅力的に見えるが、地域の人には当たり前すぎて気づかない
- 現地に行かないと味わうことのできないもの
- 非日常が味わえるもの



- **海に囲まれた立地**こそが最大の魅力
- シャイだけど、困っている人がいたら放っておけない「**人のよさ**」



- ① 「空き家活用研修」の開催！
- ② 「なりわい」を作る
- ③ 「住まい」を探す



何はともあれ場所・物件が必要！
現在、物件を探してます



最後に

いつもあたたかく活動を見守っていただき、本当にありがとうございます。
ございます。

今年度もがむしゃらに全力投球してまいりました。

来年度は退任後の定住を目指して活動していきたいと思えます。

引き続き、よろしく願いいたします。